

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

C-PET中皿



2017年11月30日
中央化学株式会社

(JASDAQ シンダート : 7895)



中央化学株式会社

1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

2. 現状認識を踏まえた今後の取組み

- 収益構造組立ての見直し

3. 主要な取組み

- 製品戦略：機能性容器への取組み
- 海外戦略：中国市場への展開

添付資料

1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

中央化学株式会社

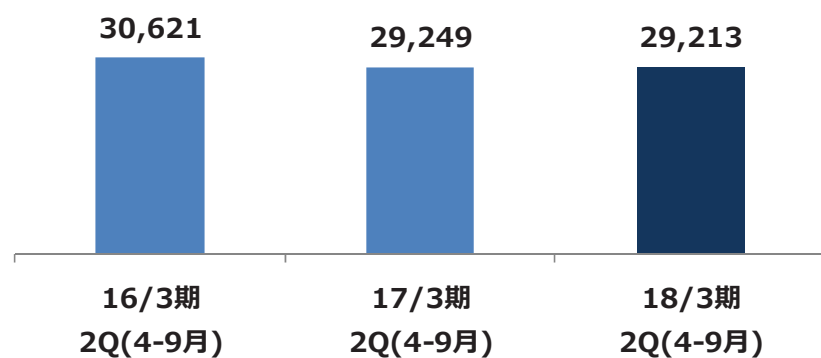
1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

2018年3月期 第2四半期連結決算の実績

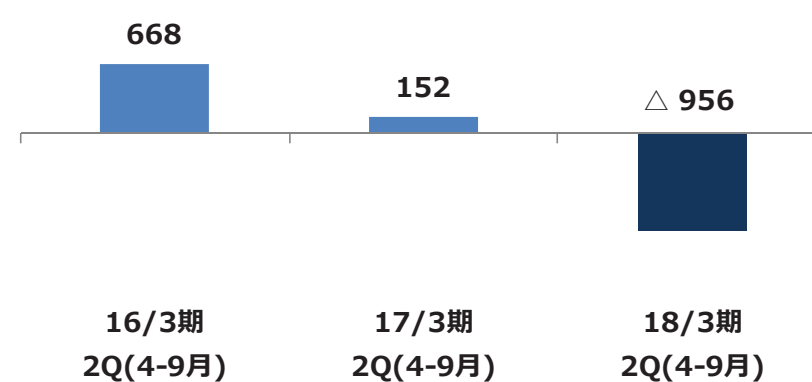
4

(単位：百万円)

売上高



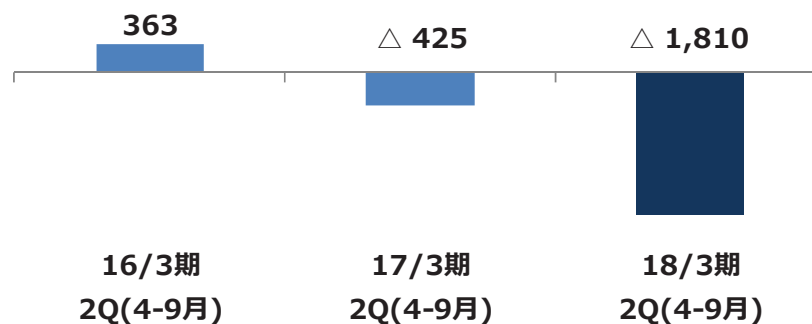
営業利益



経常利益

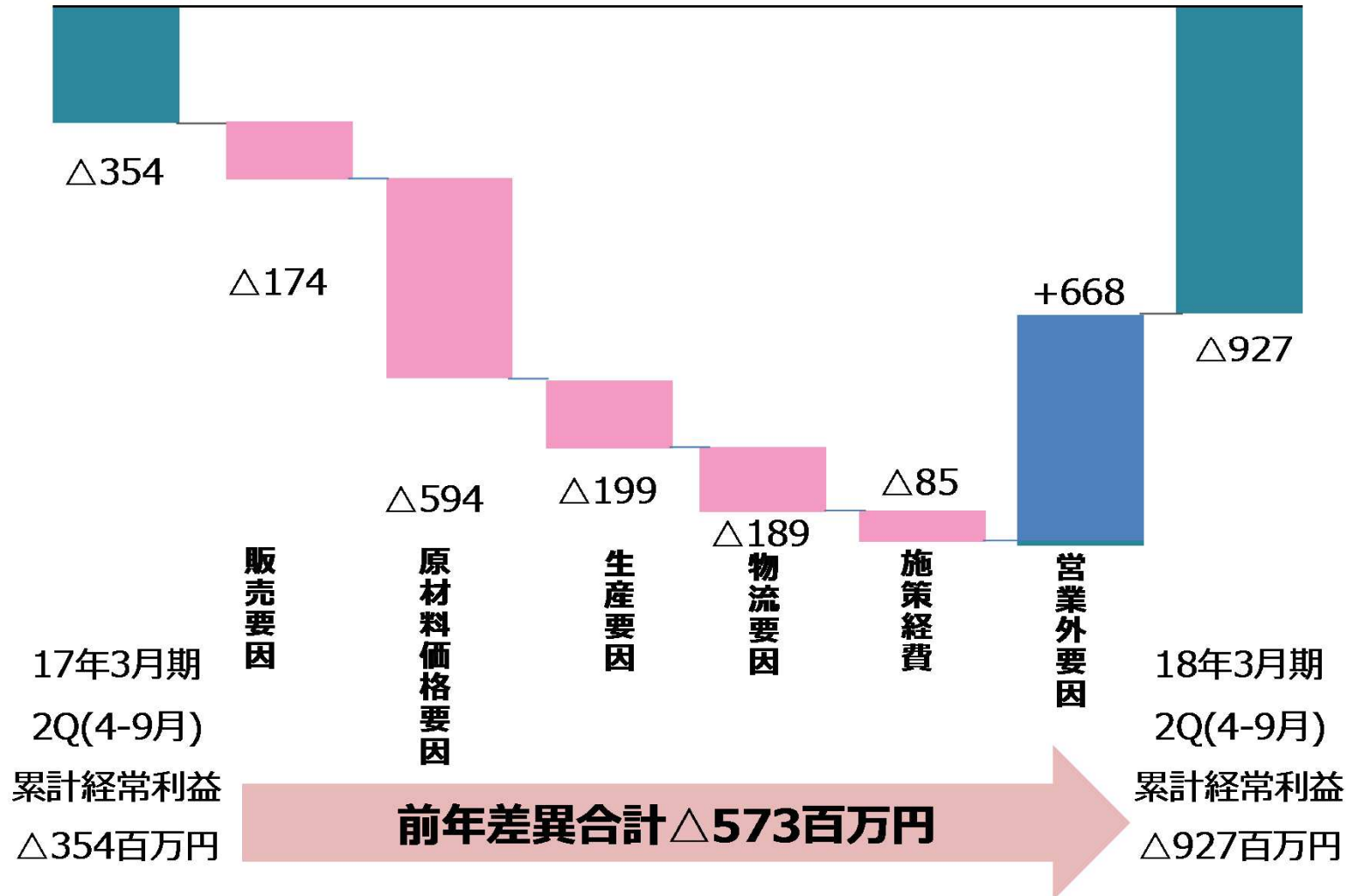


親会社株主に帰属する当期純利益



※2016年3月期第2四半期連結決算実績の為替レート：1元 = 18.85円
※2017年3月期第2四半期連結決算実績の為替レート：1元 = 15.15円
※2018年3月期第2四半期連結決算実績の為替レート：1元 = 16.66円

2018年3月期 第2四半期 連結経常利益の増減分析(前期対比)
 (単位：百万円)



1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

報告セグメントの売上高と営業利益

6

(単位:百万円)

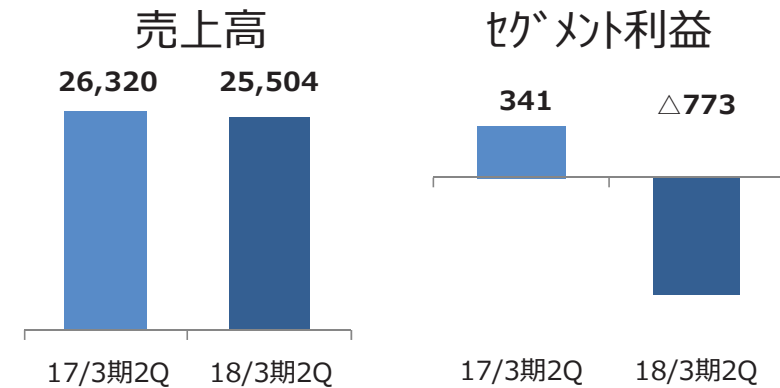
		17/3期 2Q(4-9月)	18/3期 2Q(4-9月)	前期比
日本	売上高	26,320	25,504	△ 816
	セグメント利益	341	△ 773	△ 1,114
アジア	売上高	3,500	4,368	868
	セグメント利益	68	37	△ 31

※2017年3月期第2四半期連結決算実績の為替レート：1元 = 15.15円

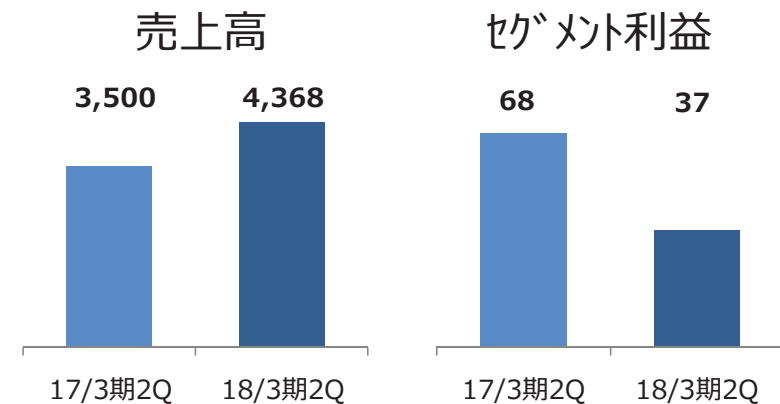
※2018年3月期第2四半期連結決算実績の為替レート：1元 = 16.66円

日本

(百万円)



アジア



1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

貸借対照表の実績

7

(単位:百万円)

	17/3期 期末実績	18/3期 2Q末実績	増減額
流動資産	24,566	23,854	△ 713
現金及び預金	4,588	4,019	△ 569
受取手形及び売掛金	9,002	10,198	1,196
棚卸資産	8,099	7,797	△ 302
その他	2,877	1,839	△ 1,038
固定資産	22,173	21,609	△ 564
有形固定資産	20,176	19,145	△ 1,031
無形固定資産	1,465	1,910	445
投資その他の資産	532	553	21
資産合計	46,740	45,463	△ 1,277
負債合計	38,731	38,996	265
有利子負債残高	16,935	17,557	622
純資産合計	8,009	6,466	△ 1,543
(自己資本比率)	17.1%	14.2%	-2.9%
負債純資産合計	46,740	45,463	△ 1,277

※百万円未満切り捨て

1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

キャッシュ・フローの実績

8

(単位:百万円)

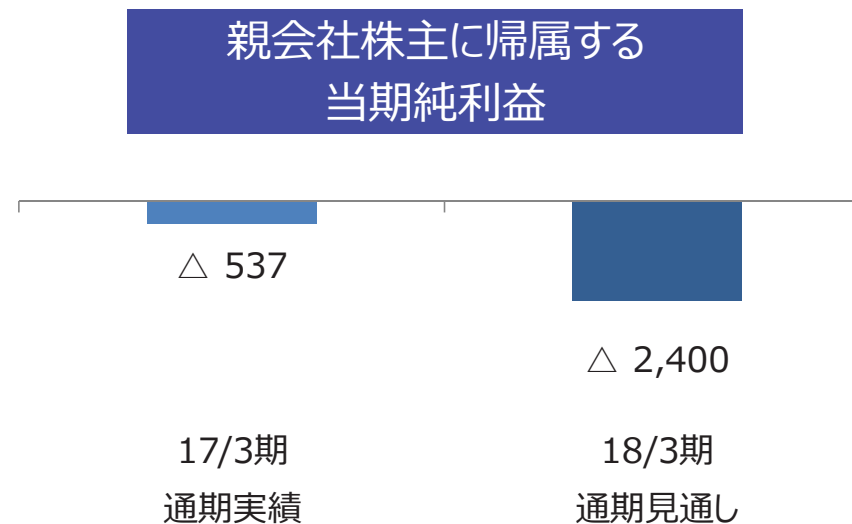
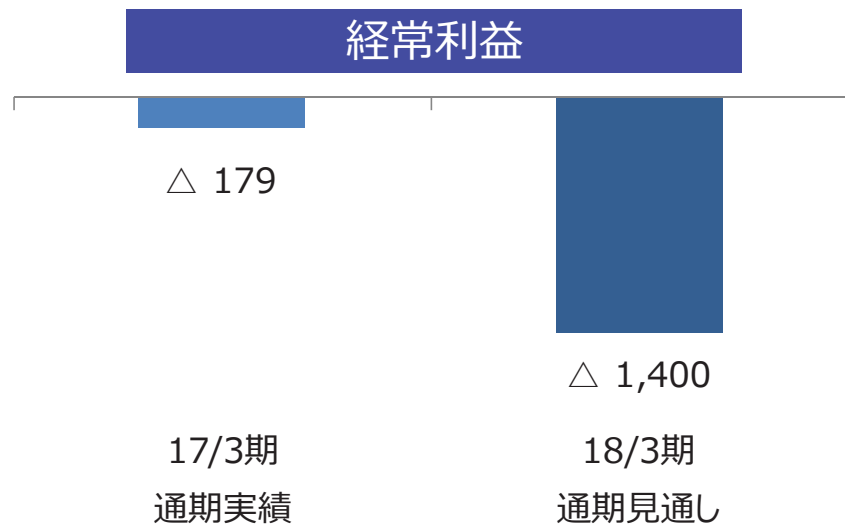
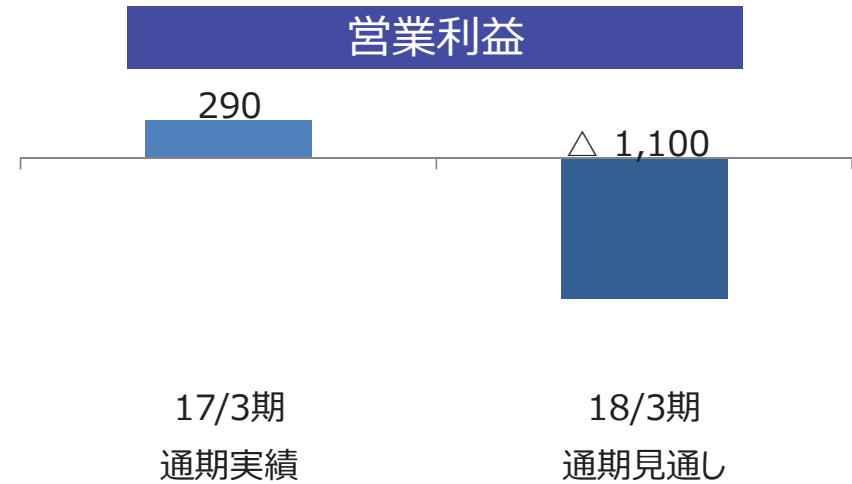
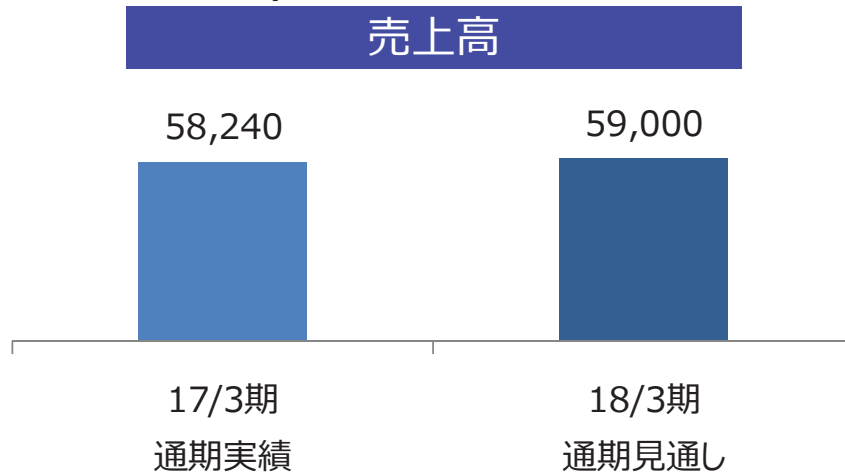
	17年3月期 2Q(4-9月)累計	18年3月期 2Q(4-9月)累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,447	669
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,444	△ 1,148
財務活動によるキャッシュ・フロー	164	△ 203
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 224	71
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 56	△ 610
現金及び現金同等物の期首残高	4,205	4,582
新規連結に伴う現預金増加額		39
現金及び現金同等物の期末残高	4,149	4,011

1. 2018年3月期 第2四半期決算の実績

2018年3月期 連結決算の通期見通し

9

(単位：百万円)



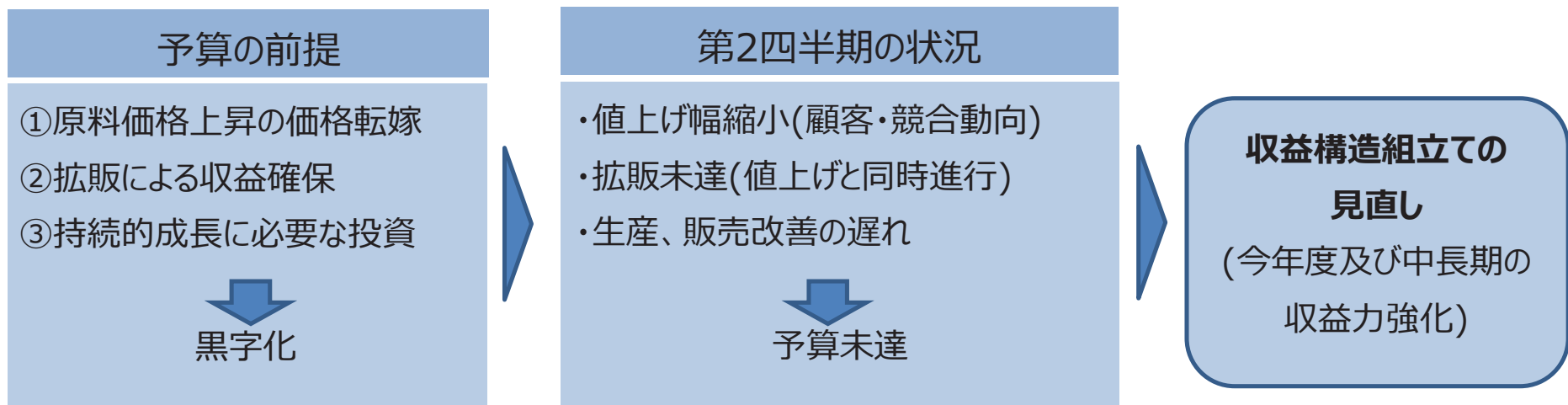
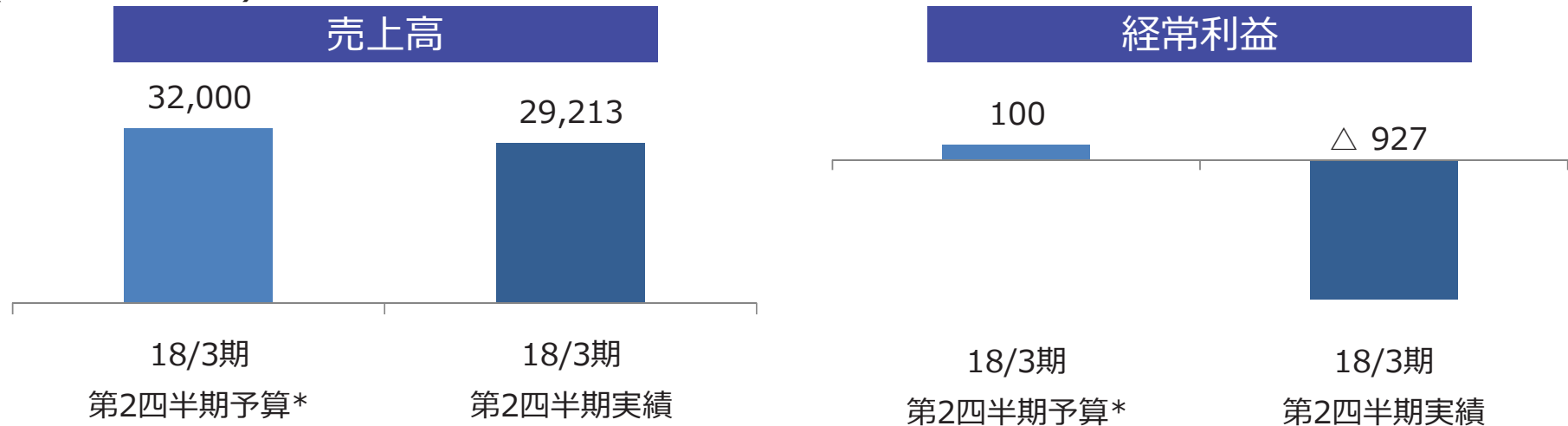
2. 現状認識を踏まえた今後の取組み

～ 収益構造組立ての見直し ～

中央化学株式会社

第2四半期の振り返りと収益構造組立ての見直しの必要性

(単位：百万円)



*予算数値は5月10日公表の業績予想(期初予想)より

収益構造組立ての見直しの狙いとポイント

現状認識と今後の取り組み

現状認識

予算前提とのギャップ

- ▶ 製品値上げ幅縮小
- ▶ 拡販未達
- ▶ 販売・生産性改善の遅れ

今後の取り組み

- ▶ 期初予算の前提が整わなかったことを踏まえ、収益構造の組立てを見直し、早期黒字化を達成するとともに、安定的な収益体質の足場固めを行い、「収益性、永続性、発展性」を磐石なものとする。
- ▶ 緊急、短期、中長期の各時間軸で、「選択と集中」を一層進め、販売・生産・管理各部門の改善を加速し、競争力を強化する。

改革の主なポイント

	営業	生産	管理部門・全社
緊急対応 ・ 経費の徹底的絞込み	■ 経費見直しによる固定費削減 ■ スリム化による直間比率見直し	■ 人・組織にフォーカスした改革 ■ 中国事業(北京)再配置	
短期的対応 ・ 不採算取引見直し ・ 製品構成の選択と集中	■ 不採算取引見直し ■ 素材、製品戦略再設定 ■ 顧客、エリア戦略再設定	■ 生産計画、生産体制再構築	
中長期的対応 ・ コア技術再構築と販売、生産、管理体制の再整備		■ 設備投資の選択と集中 ■ 自動化による生産性改善 ■ 拠点戦略最適化	

3. 主要な取組み

中央化学株式会社

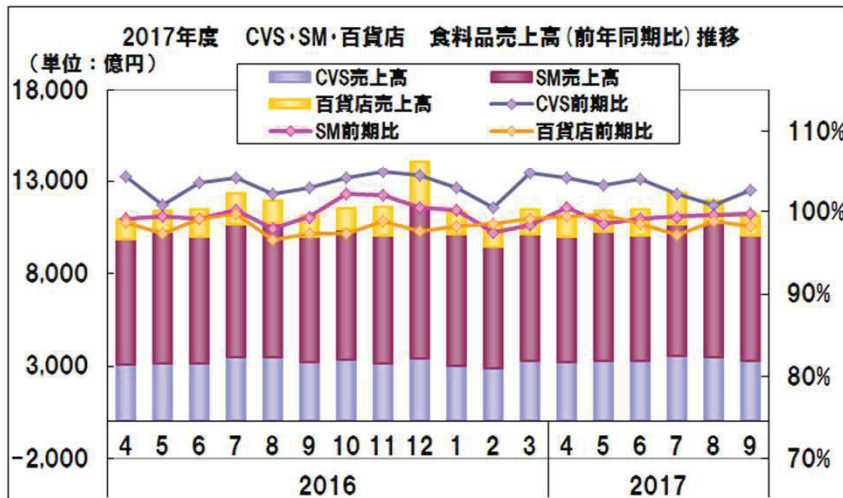
(1) 製品戦略

(2) 海外戦略

(1) 製品戦略： 国内の事業の業界環境

- 主要小売りは増収増益を確保し、食品販売量は堅調
- 業態間競争の激化 (スーパー、コンビニ、ドラッグストア等)

- コンビニエンスストア全店ベースの売上高 (17/4~9月) で10兆円を
超え、中食、デザートは堅調に推移
- スーパーマーケットの全体売り上げは減少に転じるも食料品はほぼ前年
並みに推移
- 百貨店の売上高は、買い物単価の下落、インバウンドの減速により停滞



出所: CVS …フランチャイズチェーン協会販売統計(日配食品)
SM …チェーンストア協会販売統計(食料品売上高)
百貨店…全国百貨店協会売上高概況(食料品売上高)

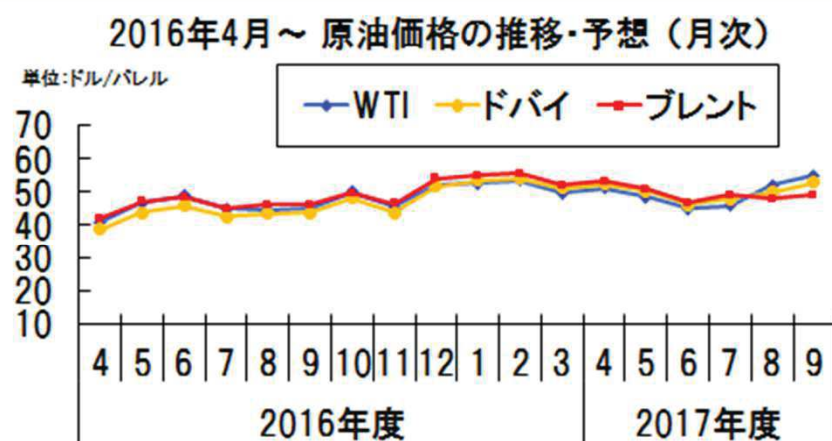
- 先行きの不透明感から消費者の節約志向も依然として続く中、業種・業態を
超えた競争も激化
- 消費者物価指数は上昇傾向に転じた



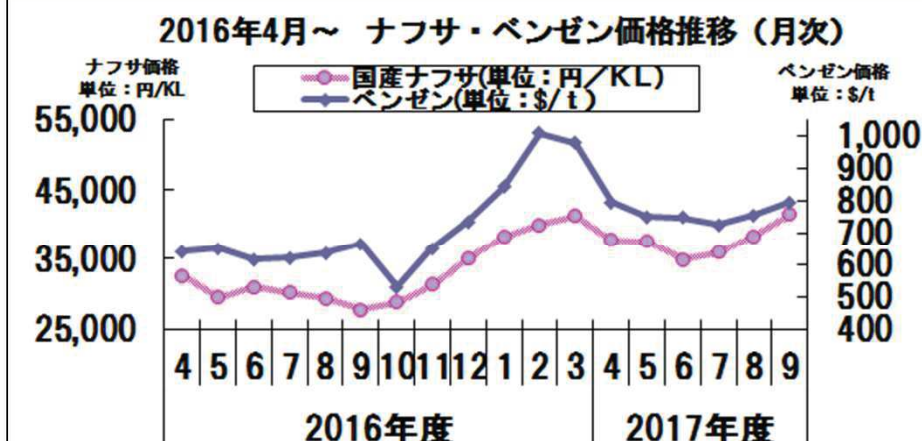
出所: 総務省統計局

(1) 製品戦略： 原料市況

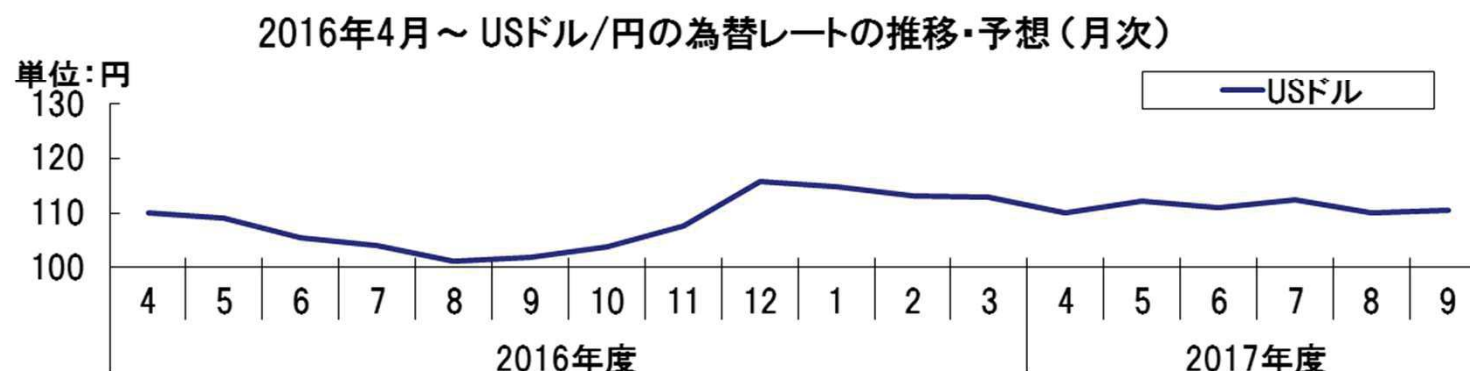
- 原油相場は足許ではOPEC、非OPECの減産合意、地政学的リスクの高まりにより上昇、中期的には需給バランス回復により上昇に向かうと見られる。



出所：IMF-Primary Commodity Prices



出所：財務省貿易統計



出所：Principal Global Indicators

(1) 製品戦略： 機能性容器への取組み

17

食品容器には今後も更なる高機能化が求められる

①ロングライフ

- ・ガスバリア容器
- ・スキンパック 等

人口減少や食品廃棄ロスを背景に食品業界では消費期限延長や廃棄ロス抑制、製造工程の改善等が求められている。



消費期限の延長(冷凍流通・容器のまま調理が可能/種々条件整備が必要)

②機能性素材

- ・超耐熱/高耐熱/耐寒耐熱
グレード
(C-PET・高断熱SD・耐寒CT)

惣菜のアイテム数増、手作り感・できたて感が求められ、手間が増える一方でバックヤードでの人手不足が足枷となり、現場の作業効率・生産性向上が課題である。



スチームコンベクションでの調理による調理工程の簡素化・調理時間の短縮/レンジアップ商品の高度化

③環境負荷低減素材

- ・C-APG
(CHUO APET GREEN)

消費者の環境意識の高まりから生産・流通業者とも環境をキーワードとしたブランディングが求められる。



PETボトルのリサイクル素材として食品容器に活用。耐熱用途以外で安全・安心な食品容器として提案

(1) 製品戦略： 機能性容器への取組み ①ロングライフ

ガスバリア容器

食品容器の高機能化

- 内容物の消費期限延長
- 流通途上での廃棄ロス抑制
- 製造工程での生産性向上等



食品ロス削減に貢献する



(1) 製品戦略： 機能性容器への取組み ②機能性素材

19

機能性素材の継続した開発

超耐熱素材

- 「C-PET」製造販売開始
- 高耐熱、耐寒衝撃性、剛性
(耐熱温度220℃)
- スチームコンベクションによる
調理が可能
- バリア機能保有

**高断熱素材**

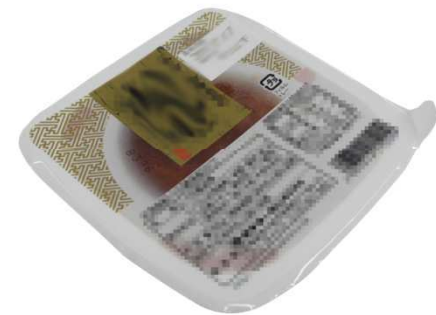
- レンジアップ分野の素材充実
- SD素材に高断熱機能を付与
- 単一素材によりリサイクルが容易
- 耐熱温度130℃、高断熱性



SD style
2013グッドデザイン賞受賞

耐寒素材

- 6次産業をターゲット
- CT素材に耐寒機能を付与
- 耐寒衝撃性、耐寒性の向上
- 冷凍からレンジアップ可能



(1) 製品戦略：機能性容器への取組み ③環境負荷軽減素材

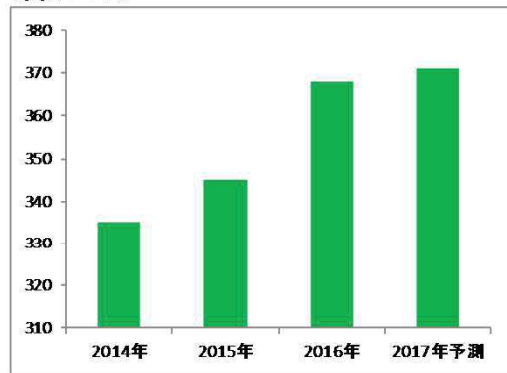
- PET容器市場全体は伸長
- リサイクルPET樹脂の使用は世界的に拡大

C-APG製品



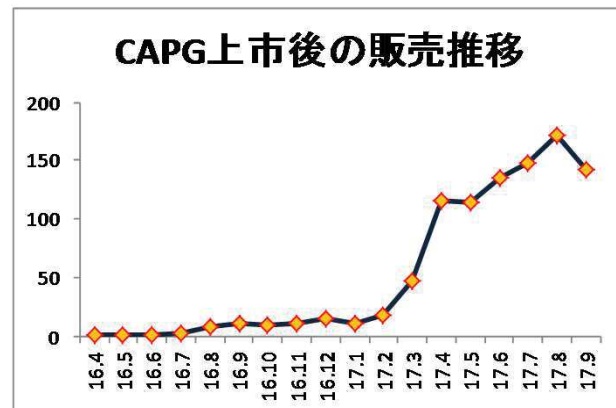
PET容器市場規模推移

単位：千トン



出所：矢野経済研究所レポートなどの公表情報より作成

C-APGの販売推移



※2016年4月を基準(1.0)とした販売数量指数

リサイクルPETシート製造事業
(APETウエスト社)合弁立ち上げ
昨年4月より製造販売を開始

PETトレイ協議会の自主規制基準
により食品に直接接触する用途に
使用可能な安全性を確保

■ 2種3層シート(PETトレイ協議会自主規制基準)



安心・安全なリサイクル原料を中間層
に使用した環境負荷軽減素材

ベジマグ



トルク



カリエ

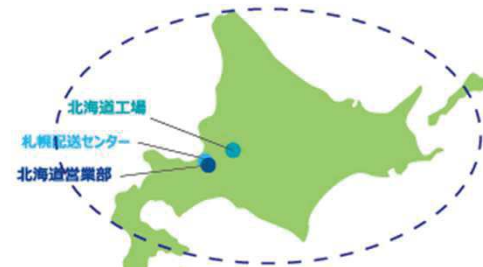


(1) 製品戦略： 地産地消・提案営業の強化

地産地消・提案営業の強化

- ショールーム/テストキッチンの地域事業所への拡大
 - ※ 開設済：東京、仙台、広島、大阪
- 機能性容器の開発と拡販
- 地域性のコストを考慮したリサイクルシステム

関西営業部
ショールーム/テストキッチン



東北営業部
ショールーム/テストキッチン



中四国営業部
ショールーム/テストキッチン



東京オフィス
ショールーム/テストキッチン



(1) 製品戦略

(2) 海外戦略

(2) 海外戦略： 中国事業における進展

中国に5製造拠点、8販売拠点、統括管理公司

グローバルな視野と地域に合わせた視点で今後も安全・安心な食品容器を提供

全社構造改革に先行し、北京拠点を海城等に移管し自動化・省人化を進めることで

一層のコスト競争力強化を図る。北京撤退の譲渡益発生を想定しているが金額は未定。



管理拠点 	統括管理 環菱中央化学管理有限公司 (上海)
生産・販売拠点 	① 海城中央化学有限公司 中国東北市場での展開 原材料供給基地
生産・販売拠点 	② 北京雁栖中央化学有限公司 首都商圏の対応 中国華北市場での展開
生産・販売拠点 	③ 無錫中央化学有限公司 上海中央と連携し華東市場での展開 海外向けの輸出
生産・販売拠点 	④ 上海中央化学有限公司 長江デルタ商圏の対応 無錫中央と連携し華東市場での展開
生産・販売拠点 	⑤ 東莞中央化学有限公司 珠江デルタ商圏の対応 中国華南市場での展開 香港・マカオ市場の対応
販売拠点	⑥ 香港中央化学有限公司
販売拠点	⑦ 上海中央化学有限公司 成都分公司



(2) 海外戦略： 中国事業における機能性素材の開発・拡販

中央化学グループの総合力を発揮して中国市場を攻める

既存製品に対するオペレーションカ/提案力

	<ul style="list-style-type: none"> ・製造/販売拠点による全国展開 		<ul style="list-style-type: none"> ・日本・中国間連携による製品開発 ・現地競合メーカーとの差別化提案
---	---	---	--

市場ニーズに適う機能性素材の開発と製品ラインナップによる新市場の開拓・拡大

 	<ul style="list-style-type: none"> ・耐熱・耐油・断熱性という市場ニーズに適う発泡素材(CSD製品) ・耐熱・耐油素材(SPP製品)のラインナップと新市場への拡販
---	--

安心・安全ブランドの確立による信頼性の確保

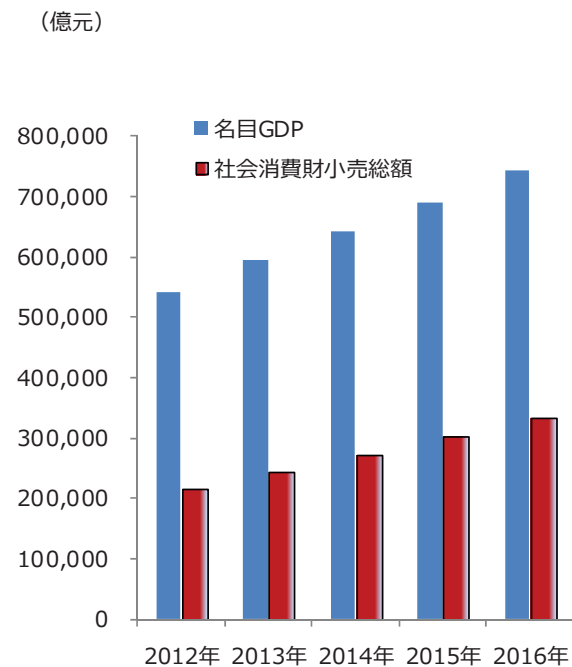
	<ul style="list-style-type: none"> ・食品の安全を保証するメーカーとして「CSD」が「食品安全創新示範項目」を受賞。 ・日本の品質管理体制の継承の結果、信頼性を確立
---	---



(2) 海外戦略： 中国の事業環境

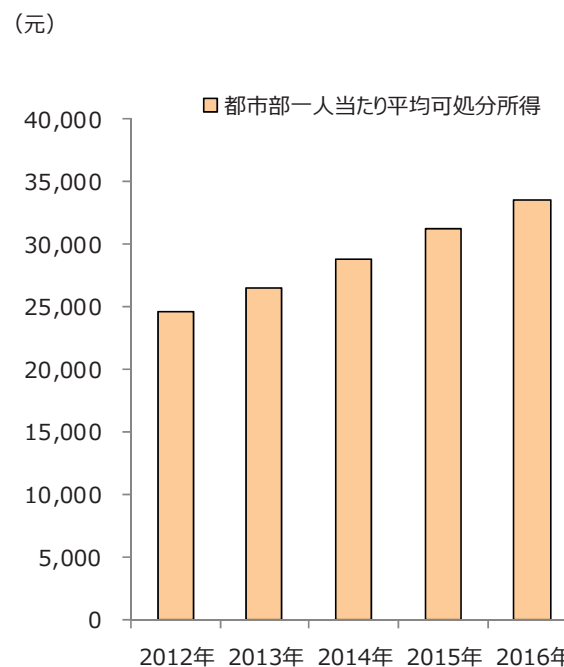
- 都市部を中心として消費財市場は拡大し、地方都市にも波及している
- 包装容器の市場規模は今後も伸び続けていく

GDPと社会消費財小売総額



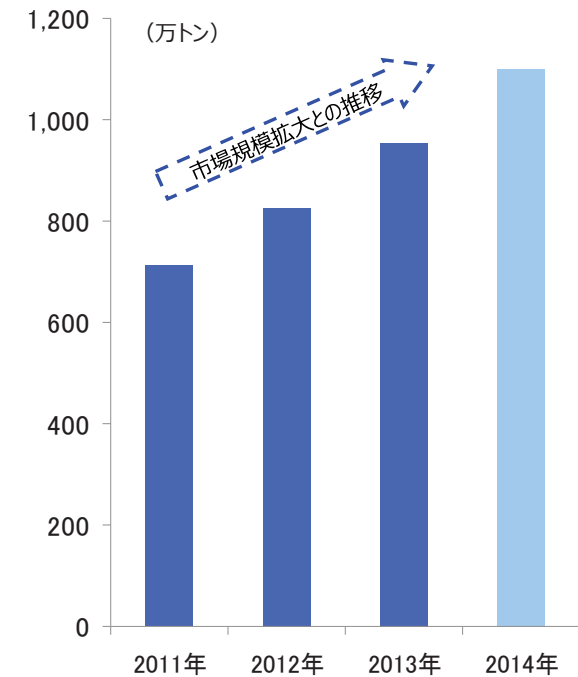
出所：中国国家统计局公表データ

都市家庭の可処分所得



出所：中国国家统计局公表データ等

食品包装容器市場規模



出所：中国包装联合会プラスチック委員会資料等

添付資料

中央化学株式会社

2018年3月期 第2四半期連結決算の実績

27

(単位：百万円)

	17年3月期 2Q累計実績 (構成比)	18年3月期		
		2Q累計実績 (構成比)	前期差 (前期比)	2Q累計見通し* (構成比)
売上高	29,249 (100.0%)	29,213 (100.0%)	△ 36 (99.9%)	32,000 (100.0%)
売上総利益	7,006 (24.0%)	5,946 (20.4%)	△ 1,060 (84.9%)	—
営業利益	152 (0.5%)	△ 956 (-3.3%)	△ 1,108 (-628.9%)	200 (0.6%)
経常利益	△ 354 (-1.2%)	△ 927 (—)	△ 573 (—)	100 (0.3%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	△ 425 (-1.5%)	△ 1,810 (—)	△ 1,385 (—)	0 (0.0%)

* 2Q累計見通しは、5月10日公表の業績予想(期初予想)より

2018年3月期 連結決算の見通し

28

(単位：百万円)

	16年3月期 通期実績 (構成比)	17年3月期 通期実績 (構成比)	18年3月期	
			通期見通し* (構成比)	前期差 (前期比)
売上高	59,397 (100.0%)	58,240 (100.0%)	59,000 (100.0%)	760 (101.3%)
売上総利益	13,858 (23.3%)	14,033 (24.1%)	—	—
営業利益	800 (1.3%)	290 (0.5%)	△ 1,100 (-1.9%)	△ 1,390 (-379.3%)
経常利益	602 (1.0%)	△ 179 (-0.3%)	△ 1,400 (-2.4%)	△ 1,221 (782.1%)
親会社株主に帰属 する四半期純利益	603 (1.0%)	△ 537 (-0.9%)	△ 2,400 (-4.1%)	△ 1,863 (446.9%)

* 通期見通しは2017年11月8日公表の業績予想より

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成された
ものではありません。

資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、
その情報の正確性及び完全性を保証または約束するものではありませんの
でご了承ください。